

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「えがお ふれあい たかめあい きらり かがやく あざ二つ子」  
 【知】学び続ける子ども…夢やめあてをもって、主体的に考え学び続ける子を育てます。  
 【徳】認め合える子…自分を大切に、自分の思いを伝えたり、相手の思いを心から受け止めたりして、認め合える子を育てます。  
 【体】たくましく生きる子…自分や相手の命や健康を大切に、心身ともにたくましく生きる子を育てます。  
 【公】協働する子…自分のまちを愛し、他者と協働して社会を高めようとする子を育てます。  
 【開】チャレンジする子…グローバルな視野を持ち、新たな価値に向かってチャレンジする子を育てます。

教育課程全体で  
育成を目指す資質・能力

言語能力  
自分づくりに関する力

具体化した資質・能力

【言語能力】  
 ①感じたことを言葉にする力 ②事実を大まかに捉える力 ③相手の思いを受け止めてから聞く力 ④身近な言葉の豊かさ ⑤言語の面白さへの気づき ⑥互いの考えへの気づき ⑦伝える内容を明確にする力 ⑧感情言葉の豊かさ ⑨伝え合うことで自分の考えを深化させる力 ⑩事実等を正確に理解する力 ⑪事実等を解釈し自分の考えを形成する力 ⑫言語の豊かさへの気づき  
 【自分づくり】  
 ①好奇心 ②基本的な生活習慣をつくる態度 ③主体性・積極性 ④社会生活の中での協調性 ⑤地域を愛する気持ち ⑥他者を理解する態度・自己を理解する姿勢 ⑦自分らしさを発揮しようとする姿勢 ⑧意思決定する力

中期取組目標

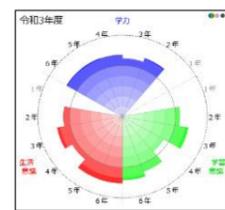
○自分の思いを伝えたり、相手の思いを心から受け止めたりして、自分も相手も大切に認め合える子を育てます。  
 ・1年目は、自分の思いを伝え、対話的に学びに楽しさを感じる授業を推進します。  
 ・2年目は、相手の考えや気持ちを理解して、伝えあう力を育てます。  
 ・3年目は、自分も相手も大切に、共に生きることを深めることができるようになります。  
 ○学校やまちを愛し、他者と協働しながら行動できる子を育てます。  
 ・3年間を通して自己有用感や自己肯定感を高めることができますようにします。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
学習指導	①午前5時間授業を推進し、集中力の高い午前中に1コマ40分の5時間授業を実施し、生活や学習リズムの確立、授業時数の確保、学習内容に則した弾力的な授業時間の設定や指導計画の工夫を行い、学力の定着を図る。 ②3・4・5・6年生で教科分担制を推進し、より専門的な授業展開による学力向上や、複数の教員で子どもを見守り子どもたちの心の安定をめざす。 ③算数は学習内容が難し、学習の定着に課題があるため、3年生以上の算数では、個別学習を実施する。
担当	授業研究部

学力向上に関わる本校の状況

(1)学力向上に関わる児童の実態  
 ○国語・算数・理科・社会の学力と生活意識調査に関しては市平均を大きく上回り、高い数値が見て取れる。一方で、学習意識は市平均を下回る学年もあり、学力と意欲関心にズレがある。  
 ○全体として記述式の問題の正答率が比較的低い。  
 ○意見交換等、友達との交流を通して学びを深める姿に課題が見られる。



(2)これまでの学校の取組の状況  
 ○コロナ禍の新生活様式のなかで、「今、自分たちにできること」をテーマに実施した生活科・総合的な学習の時間を中心とした探究的・協働的な学習実践や他者と関わりながら自己の生き方について考える学習活動に取り組むことで、コミュニケーション力や学習意識の向上を図ってきた。  
 ○スキルタイムを活用し、漢字・計算問題等、基礎・基本となる学習に継続的に取り組んでいる。  
 ○3年生以上は、教科分担制を意図的・計画的に実施し、児童の実態や各教科等の特性に合わせた学習活動を行い、学力の向上に努めている。

今年度の目標

育てたい子ども像を明確にし、「自分づくり」と「言語能力」の資質・能力の向上を図ることを通して、学力を高める。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期  
 ○集中力の高い午前中に1コマ40分の授業を5コマ実施し学力定着を図る。その際、標準時数になるように、教科ごとにコマ数を増加する(例:道徳35回→40回)  
 ○3年生以上は、教科分担制を意図的・計画的に実施し、児童の実態や各教科等の特性に合わせた学習活動を行う。  
 ○算数コース別学習では、個別最適な学びを実現するために、基礎・基本を確実に身に付けるコースと、じっくり学習するコースを設定し、学習を進める。  
 ○国語科の重点研究では、自分を大切に、自分の思いを伝えたり、相手の思いを心から受け止めたりして、認め合えるあざ二つ子の育成をめざす。  
 ○全ての児童が参加し、主体的に取り組める学習のあり方を7月、11月、12月の年3回の授業研究会を通して、検証していく。  
 ○自分づくりでは、生活科・総合的な学習の時間を中心に、体験的に学ぶ機会を積極的に設け、他者と関わるよさを体得し、自ら考え、判断し、表現する力を育てていく。

下半期

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
人権教育	①1・6年、2・4年、3・5年で「なかよし交流タイム」を設定し、上級生に対する尊敬の気持ちや下級生に対するいたわりの気持ちを育てる。【交流タイム年8回実施】 ②「学校行事」「長縄跳び集会」「地域の人たちとの体験活動」等を設定し、「人の役に立った」「人から感謝された」「人から認められた」という自己有用感や「できる自分」「できなくても大丈夫という自分」「ありのままの自分が好き」というしなやかに生きる自己肯定感を育成する。
担当	道徳部・人権委員会

豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心に関わる児童生徒の実態  
 ・知識として道徳的価値を理解する能力は高いが、実生活の上で行動に表れるような規範意識はあまり高くない。  
 ・学習能力は高いが、自尊感情は比較的高くなく、高学年になるほどその傾向が強くなる。  
 ・友達同士のコミュニケーション能力が十分育っていない。  
 ・明るくおおらかであるが、自らの判断で動けない。  
 (2)これまでの学校の取組状況  
 ・授業づくりでは「自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、他者と協働しながら取り組む」ことを推進してきた。  
 ・授業参観や懇談会、学校運営協議会等を通して、学校を社会に開き、保護者や地域と連携を図りながら子どもたちに必要な資質・能力を育むことを目指してきた。  
 ・学校生活アンケートや学力・学習状況調査における児童の実態を把握し、児童に最適個別最適な学びや協働的な学びを目指し、教員の資質・能力を高めてきた。  
 ・結果、保護者による学校評価では「学校は、友達と関わり合いながら学習を進めている」という項目で、「そう思う」「ほとんどそう思う」と答えた割合が95%以上であった。

今年度の目標

地域社会と目標の共有をし、連携・協働しながら、児童の自尊感情を育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

○道徳科を要した学校の教育活動全体を通じた道徳教育  
 ・事前アンケートなどを実施し、子どもの日常の実態をもとに学習課題を決める。  
 ・振り返りの時間を十分に取って、子どもたちがよりよく生きるためにはどう行動していくか、自分自身のこととしてとらえ、友達の考えをよく聞き話し合う「考える道徳」「議論する道徳」の指導を展開するよう取り組む。  
 ・学習したことを全員で共有化し、学級経営に生かす。  
 ・道徳教育全体計画別業を見直し、各教科の特質に応じ他教科との総合化を積極的に図り、計画的に進める。  
 ・道徳的価値について自ら考えるきっかけとなるよう、評価につなげられる振り返りカードを活用する。  
 ○異学年交流  
 ・年間8回、1・6年、2・4年、3・5年の「なかよし交流タイム」を設定し、クラスごとに上級生と下級生がふれあう。  
 ・また、なかよし交流でのクラスで新体力テスト、長縄跳び集会を行う。  
 ・上級生に対する尊敬の気持ちや下級生に対するいたわりの気持ちを育てる。  
 ○「学校行事」「地域の人たちとの体験活動」等  
 ・コロナ禍で人との関わりに制限がある中、遠足や宿泊体験学習、運動会、ミュージックフェスタなどの行事では、「人の役に立った」「人から感謝された」「人から認められた」という自己有用感や「できる自分」「できなくても大丈夫という自分」「ありのままの自分が好き」というしなやかに生きる自己肯定感を育成する。  
 ・学校地域コーディネーターと連携を取りながら地域との交流を図り、地域の方の教育活動への支援やふれあい豊かな人間性の育成する。  
 ・オリパラ推進校等、外部資源を有効活用して、思いやりの心や他者意識を育てる。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①栄養士との連携による食育に関する授業を実施し、食育の推進を図り、食に関わる資質・能力を育成する。 ②年間を通じて、全校で長縄跳びに取り組み、体力の向上を図ると共に、運動に親しむ態度を育む。【長縄跳び集会年3回】 ③学校保健委員会や保健委員会の活動等を通して、感染症対策や健康を保つための活動を行う。
担当	体育部

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる児童の実態  
 ○横浜市体力・運動能力調査では「運動やスポーツの実施状況が市平均より高く、休日にも運動に親しむ児童が多い」。  
 ○一方「運動時間」は市平均より低く、運動に親しむ児童とそうでない児童の二極化がみられる。  
 ○「朝食の有無」、「睡眠時間」については、市平均より高く、正しい生活リズムで過ごす意識が高い。  
 (2)これまでの学校の取組状況  
 ○運動委員会が中心になって長縄跳び集会を運営したり、運動会実行委員が中心になって運動会の運営したりと、児童を中心とした運動への取組を実施している。  
 ○長縄跳び集会を年3回設定し、運動に親しむ機会を増やせるよう取り組んでいる。  
 ○3～6年生は、教科分担制を実施し、学年全体の体育授業を学年ごとの担当教員が指導し、体力や技能の向上を図っている。

今年度の目標

○児童がバランスの良い食事を意識して、主体的に生活を改善しようとする態度を育成する。  
 ○休み時間の外遊びや長縄跳びに取り組み児童を増やし、遊びや長縄跳びを通して運動の楽しさを感じ、体力向上に努められるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

○食育の推進  
 ・給食室前の掲示物や給食時間の放送などを利用し、全校へバランスのよい食事について考える機会を設ける。  
 ・高学年では、栄養士との連携による家庭科の授業を通して、栄養バランスの良い食事を自分で考えられるようにする。  
 ○体力向上  
 ・長縄跳びを通して運動の楽しさを感じられるように、年3回の全校長縄跳び集会を運動委員会を中心に運営する。  
 ・休み時間に外遊びに取り組み児童を増やすために、学校保健委員会で取り組む内容を考え、保健委員会を中心に企画し、全校で活動を進める。  
 ○健康の保持増進  
 ・子どもたちの健康の保持増進を進めるために児童保健委員会と職員の保健安全部が連携をして感染症対策に取り組む。  
 ・日常的な健やかな体に関わる取組を「保健だより」や「食育だより」で家庭や地域に発信する。

